

ふりむけば駒ヶ岳

～駒ヶ岳火山防災会議協議会の歩みと課題について～

元北海道森町防災交通課長

中西 清

要旨：

「ふりむけば駒ヶ岳」というテーマで、駒ヶ岳周辺市町で設置している駒ヶ岳火山防災会議協議会の事業を中心に、私共が行っている「駒ヶ岳の火山防災事業の歩み」や「課題」などについて簡略に話をしたいと思います。本日の連携会議の参考にしていただければ幸いです。

駒ヶ岳火山防災会議協議会の設置

駒ヶ岳周辺の5つの町で、「昭和52～53年の有珠山噴火」の際の取られた広域的な防災対応を受けて、「山が静かなときに」、将来の駒ヶ岳の火山噴火に備えるため「駒ヶ岳火山防災会議協議会」を昭和55年10月に設置、会長に森町長を、事務局を森町が担当することになりました。

火山の防災会議協議会としては、国内で3番目、北海道では初めての設置となりました。

現在、協議会は、市町村合併により森町、鹿部町、七飯町、函館市の1市3町で設置しています。（防災計画の及ぶ範囲は、当分の間、3町と函館市南茅部地区の旧5町としてあります。）

駒ヶ岳火山噴火防災計画と駒ヶ岳火山噴火災害危険区域予測図（ハザードマップ）

協議会の設置後、駒ヶ岳の噴火史や過去の火山災害に関する資料の収集、火山防災の先進地視察研修、北大の勝井教授の指導や防災関係機関の助言など各方面にご協力をいただき、駒ヶ岳の火山噴火防災計画の策定に着手しました。

その策定の過程で、火山防災計画をわかりやすくするため、防災計画の添付図として、噴火災害区域区分と交通規制、避難道路と避難場所を記載した「駒ヶ岳噴火地域防災計画図」という地図を2種類、勝井教授の指導、助言を受けて策定に着手しました。

これが後になり、国内の自治体で最初に策定・公表された「(火山噴火災害危険区域予測図)、ハザードマップ」となりました。

また、この防災計画図に基づく「駒ヶ岳火山噴火地域防災計画」を昭和58年11月に策定、この計画に基づき、各種の火山防災事業を協力しながら実施してきました。その後、平成6年に「国土庁が平成4年度に策定した、ハザードマップ策定方針」に基づき、新たなハザードマップを策定・公表しました。

また、同時に、「駒ヶ岳が怒ったとき」という住民啓発のための火山防災ビデオも国内の自治体では初めて製作し、学校、図書館、関係機関等に配布しました。（協議会設置市町の鹿部町では、全戸配布しています。）

平成16年3月には、北大の岡田先生を始めとする火山学者の方々や札幌管区気象台の協力のもと、（平成12年の有珠山噴火の総合的な対策を参考とし）、新たな視点から火山噴火防災計画を作るために「駒ヶ岳火山噴火シナリオ」を策定しました。そして、このシナリオとハザードマップに基づいた新たな火山噴火防災計画である「駒ヶ岳火山噴火町相互間地域防災計画」、「噴火災害初動マニュアル」、「巻末資料・北海道駒ヶ岳」を策定しました。

特に、「巻末資料・北海道駒ヶ岳」は、駒ヶ岳の周辺概要、火山の知識、地形、地質、噴火の記録、ハザードマップ、協議会の歩み等を北大の吉本助教の協力のもと、まとめたもので、防災計画巻末資料として折り込んであるほか、冊子にしたものです。

（協議会の1市3町は、各種火山防災事業を進めるに当たり、2ヶ月に1回程度は、協議会の防災担当者会議、幹事会関係機関との会議、テレビ会議等を開催し、協議、検討、研修を行い、力を合わせて事業の実施をしています。）

協議会の火山防災事業は、特に、山麓地域住民の防災意識を高め、火山噴火に備えて、いざという時の準備を呼びかけるため、2年から3年に1回、「壁貼りタイプのポスター（3回配布）」や「小冊子タイプの防災ハンドブック（6回配布）」を各家庭（函館市を除く、旧5町、22,900部）に配布してきています。

また、日頃から「駒ヶ岳とはどんな火山か、火山噴火とはどんなものなのか、火山防災とは。」などを知ることが火山防災の第一歩であることから、火山学者、火山専門家などの協力のもと、地域住民や防災担当者等を対象とした、研修会や火山防災講演会なども各市町で開催しています。この活動については、平成10年度の第3回防災まちづくり大賞の大賞である自治大臣賞を受賞しました。

また、最近は関係資料の電子化を進めています。駒ヶ岳火山や火山防災を地域住民や関係機関の方々などにより知っていただくため、更に後継者のための資料として「協議会の歩み」、「昭和4年大噴火の記録写真集」、「学校防災教育用・噴火のヒミツを探れ」、「防災教育用フィールドトリップマップ」、「協議会だより」、「書き込み用噴火シナリオ」、「降灰訓練報告書」などを電子版資料として作成・配布していますし、一部ホームページでの公開もしています。

最近には、札幌管区気象台の事業である「火山防災学校教育事業」と連携し、吉本助教の協力を得て、鹿部町「鹿部小学校」での火山防災教育の推進に地元鹿部町と共に取り組んでいるところです。

駒ヶ岳火山防災会議協議会後の現状と課題

最後に、いろいろ話してきましたが、決して、すべてがうまくいっている訳ではありません。私共が、火山対策のために、火山周辺の自治体で駒ヶ岳火山防災会議協議会を設置し、火山防災対策事業を始めてから32年経ちますが、駒ヶ岳の火山の歴史（3万年から5万年、1640年大噴火から360年）から見れば、ほんの一瞬で、これからも永く続けなければなりません。火山の山麓に住む私たちは、今後とも駒ヶ岳の山麓で、「火山とともに生きるまちづくり」を展開していかなければなりません。

火山の山麓で、「火山災害を軽減し、地域の安全や住民で豊かな生活を営んでいくために」、住民、協議会、防災関係機関が連携、協力し「自助・共助・公助を基本理念」に、「火山が静かなときこそ、継続して」、火山防災活動を進めなければならないと考えます。

ふりむけば駒ヶ岳

～駒ヶ岳火山防災協議会協議会最近の取り組み状況について～

北海道森町防災交通課
課長兼防災係長 福田 繁幸

要旨：

先程、元防災交通課長・中西清さんより説明のあった中から、現在、協議会で実施している事業をかいつまんでお話しいたします。

協議会では、担当課長・参事会議、担当者会議を経てハンドブックづくりの担当者を各市町より選出し協議・検討し、関係機関の協力を得て、平成22年3月、通算10冊目の防災ハンドブックを作成し、配布しています。

また、協議会では、毎月、気象庁による火山活動状況の発表に合わせ、気象庁と札幌管区気象台、地元函館海洋気象台、森町、森町砂原支所、鹿部町、七飯町、函館市南茅部支所とネットワークで結んで、テレビ会議を実施しています。なお、このシステムは学校防災教育などにも利活用しています。

更に、協議会では、毎年、北海道防災へりを借り上げ、駒ヶ岳火山活動状況を上空から目視による調査を実施しています。これには、構成市町の他、北海道、函館海洋気象台、消防本部等の防災担当者が参加しています。

協議会では、毎年、協議会構成市町担当者と函館海洋気象台、北海道、消防職員と一緒に降灰調査訓練を実施しています。これは、実働訓練の1例ですが、研修会と降灰調査（採取）訓練の模様です。私共の協議会では、噴火した、噴火した模様であるとか、降灰を確認できたら、消防と連携を図っており、署員が降灰調査地点まで行って降灰の採取をするという実働訓練を隔年で行っています。

駒ヶ岳は、平成8年・10年・12年に計6回の小噴火をしました。平成12年の噴火終了後は、登山規制を実施し、山を閉めてきましたが、周辺の観光団体より要望を受け9年ぶりの平成21年より登山を再開してきましたが、山の案内をしていただく人材の育成に向け取り組んでいるところです。

協議会はもとより、町として、防災教育時に講演といっしょに「防災手帳」を配布して、住民の防災意識の高揚を図ってきています。手帳のように作ると、バックなどに携帯できるサイズでもあるので是非、持ち歩いてください。とお願いしています。

協議会では、歴史やこれまでの事業の経過、その年の事業内容などをまとめて発行しています。

「まとめ」としまして

- ①駒ヶ岳防災ハンドブックの改訂
- ②気象庁テレビ会議システムの利活用
- ③北海道駒ヶ岳火山防災活動へり調査
- ④北海道駒ヶ岳火山噴火降灰調査研修会、降灰採取実働訓練
- ⑤住民の防災意識向上のための「防災講演会」の実施
- ⑥学校防災教育
- ⑦地域防災講演会

など、たくさんありますが、継続していくためには先輩から引き継いだ事業を事務局担当者が面倒がらず、取り組むこと。協議会の構成市町との協力者を図り、気象庁、函館海洋気象台、北海道や研究機関の北海道大学などと連携していくことが一番大事であろうと思います。この場を借りて、関係機関の皆様には今後もよろしくお願ひいたします。

ご清聴ありがとうございました。

現行の防災計画、マニュアル、資料「北海道駒ヶ岳」



平成16年3月策定、防災計画、初動マニュアル、巻末資料「北海道駒ヶ岳」

防災ハンドブック・ポスター



防災ポスタータイプ3種類、防災ハンドブックタイプ6種類

防災ハンドブック・ポスター掲載内容

掲載項目	種類 年 サイズ	防災ポスター			防災ハンドブック					
		1984	1986	1992	1989	1990	1995	1997	1998	2002
		A2片面	A3片面	B2両面	A4冊子	A4冊子	A4冊子	A4冊子	A4冊子	A4冊子
火山及び火山災害一般								○	○	
火山の異常現象	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
火山情報の種類と流れ						○	○	○	○	
火山用語の説明						○	○	○	○	
火山災害の心得			○		○					
駒ヶ岳の概要			○	○	○	○	○	○	○	
噴火史			○	○	○	○		○	○	
噴火史(子供用)			○	○	○	○	○		○	
駒ヶ岳周辺地図			○		○			○		
災害実績図						○	○	○	○	
災害危険区域予測図		○	○	○		○	○	○	○	
防災施設						○		○		
観測体制			○		○	○		○	○	
協議会の活動について								○		
避難の方法と心得	○	○	○	○	○	○	○		○	
避難場所と集合場所	○	○		○	○	○	○		○	
非常時持出品リスト			○	○	○	○	○		○	
電話帳							○		○	
避難カード									○	

火山防災研修会



防災講演会・シンポジウム

● 火山防災ミニシンポジウムにぜひおいで下さい! ●

昭和4年駒ヶ岳大噴火から70年

火山災害に備えて

平成11年 9月13日(月) 森町公民館
午後6時30分より

趣 旨

昭和4年の駒ヶ岳大噴火から70年、また平成8年・10年の小噴火を踏まえて、火山災害に対する防災意識を高め、火山の山麓で火山と共に生きる知恵をばくむ課題などを話し合い、住民の皆さんの防災に対する目頃からの心構えといざという時に備えて、「火山災害に備えて」をテーマに開催するものです。

基調講演

「火山と火山災害」

火山とは、火山災害とは、駒ヶ岳の噴火史と昭和4年の大噴火について

北海道大学教授、有珠火山観測所長
岡田 弘氏

火山防災座談会 (パネルディスカッション)

- コーディネーター
NHK解説委員、文教大学教授
伊藤 和明氏
- パネラー
北海道大学教授
岡田 弘氏
- パネラー
昭和新山資料館・三松正夫記念館長
三松 三朗氏

主催 / 森町、(社)日本損害保険協会
後援 / 駒ヶ岳火山防災会議協議会、森町消防本部、森町消防団、森町町内会連合会
(問い合わせ: 森町後援防災消防対策室 TEL. 01374-2-2381)

防災シンポジウムにぜひおいでください!

防災シンポジウム北海道

平成2年 9月7日(金) テーマ 火山と生きる
火山噴火災害と防災

■ 場所: 森町公民館
■ 時間: 午後1時30分より

趣 旨

北海道においては、近年、有珠山の噴火(昭和52年)に始まって樽前山、雌阿蘇岳、昭和63年の十勝岳この10年程、噴火や顕著な火山活動が続いています。

それでは現在、静かな駒ヶ岳はどのような状態にあるのでしょうか。最近の国内外の火山噴火を事例とし、火山噴火予知の現状を踏まえて、今後の予知防災の備前から、先手先手の対応と火山と共に生きる知恵をばくむ課題などを話し合い、住民の皆さんの防災に対する目頃の心構えといざという時に備えて、「火山と生きる」をテーマに開催するものです。

パネルディスカッション

- コーディネーター
伊藤和明氏 (NHK解説委員)
- パネラー
勝井義雄氏 (北海道大学名誉教授)
吉井博明氏 (文政大学教授)
竹中恵一氏 (北海道防災消防課主幹)
湊美喜夫氏 (駒ヶ岳火山防災会議協議会長・森町長)
青柳輝義氏 (上川南部消防事務組合消防長)
- コーディネーター
NHK解説委員
伊藤 和明氏
- パネラー
昭和美子氏 (東京生まれ、昭和28年4月、東京大学理学部数学科卒業、昭和34年10月、日本放送協会(NHK)入社、ディレクターとして科学番組、自然番組の制作に専念、昭和53年7月、NHK解説委員となり現在に至る)

主催 / 北海道・駒ヶ岳火山防災会議協議会・日本損害保険協会
後援 / 森町・森町消防本部・森町町内会連合会

第3回防災まちづくり大賞



駒ヶ岳火山防災会議協議会(北海道)
もりまち さわらちよう しかべちよう
みなみかやべちよう ななえちよう

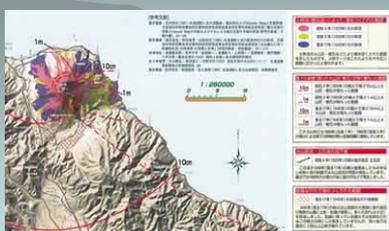
自治大臣賞
「駒ヶ岳火山防災会議協議会の火山
防災に関する啓発事業」



北海道駒ヶ岳の山麓に位置する森町・砂原町・鹿部町・南茅部町・七飯町が駒ヶ岳噴火災害に対して協力して一体的な防災対策を行うために、昭和55年から本協議会が設置されました。

まず、過去に起きた大規模な噴火を想定して、防災計画図(ハザードマップ:危険区域及び交通規制、避難場所及び避難道路の2種類を作成。)を作成するとともに、この防災計画図に基づいた駒ヶ岳火山噴火地域防災計画を策定しました。

この他、地域住民等への啓発事業として、防災ポスターや防災ハンドブックを隔年で作成して各家庭に配布するとともに、火山学者や専門家による火山防災講演会なども毎年開催しています。また、平成6年度には火山防災のビデオ(タイトル:駒ヶ岳が怒った時一備えあれば憂いなし-)を制作し、防災関係機関、学校、図書館等に配布して防災意識の向上に努めています。



平成10年受賞

関係資料の電子化



鹿部小学校での学校防災教育(火山)



駒ヶ岳火山防災会議協議会現状の課題

1. 合併による新体制づくりの構築
2. 事業にかかる予算の確保
3. 新たな噴火シナリオ、火山活動レベル化等に対応した火山噴火防災計画の改訂
4. 住民の防災意識を高めるための啓発活動
5. 後継者の育成や資料の整理、保存
6. 協議会のありかた
7. 大学等研究機関との連携

火山とともに生きるまちづくり

- ◆「自助、共助、公助を基本理念に」
- ◆「火山が静かなときこそ、継続して」

駒ヶ岳火山防災会議協議会 最近の取組み状況等

北海道森町

防災ハンドブック



防災ポスタータイプ3種類、防災ハンドブックタイプ6種類



通算10冊目のハンドブック

気象庁テレビ会議システム による月例会議(火山活動状況)



北海道防災ヘリによる火山活動状況調査

北海道防災ヘリ借り上げによる駒ヶ岳火山活動状況ヘリ調査



防災ヘリからの撮影写真(昭和4年火口)



図1 火口周辺図

火山防災講演会と駒ヶ岳登山研修会

北海道駒ヶ岳 火山防災講演会

北海道駒ヶ岳は、一昨年、12年ぶりに入山規制が緩和され、今年も多くの登山者でにぎわいましたが、現在でも駒ヶ岳が日本の活火山のなかで最も活動的なランク A の火山であることに変わりはありません。

近年では、平成8年から平成12年にかけて8回の小噴火が発生しており、周辺市町において駒ヶ岳火山防災対策は、避けて通れないものです。

今回、この防災対策の一環として、駒ヶ岳火山防災講演会を開催します。

防災対策は、災害に対する正しい知識を身につけることから始まります。ぜひ、この機会にご聴講ください。



日時 平成24年 1月24日(火)
13時30分開演 (13時開場)
場所 森町公民館
講師 札幌管区気象台
火山監視・情報センター職員
問合せ 森町役場 防災交通課
(01374-2-2181)

森町・駒ヶ岳火山防災会議協議会主催

防災講演会のチラシ

「駒ヶ岳登山研修会」

■日 時 平成24年11月 6日(火) 午前9時15分より
■場 所 グリーンピア大沼・北海道駒ヶ岳



次 第

- 09:00 受付開始
- 09:15 開 会 駒ヶ岳火山防災会議協議会
事務局長 防災交通課長 福田 繁 幸
北海道大学大学院 理学研究科 自然史科学部門
- 09:20 研 修 助 教 吉 本 亮 宏 氏
- 11:40 昼 食 (休憩・出発準備)
- 12:20 移動開始
- 12:50 オリエンテーション(説明)
- 13:00 登山開始(6合目→馬ノ背→火口原→馬ノ背→6合目)
- 16:30 閉 会(解散)

※雨天の場合は、伊達のみ実施。都合後調整。
登山参加者は、ヘルメット着用して下さい。

駒ヶ岳登山研修会次第

森町の防災手帳

① 警戒と早期の避難が大切
② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
⑤ できる限り外出は控える
⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
⑧ 車は早めにあきらめる
⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る

身の守るポイント

- ① 警戒と早期の避難が大切
- ② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
- ③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
- ④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
- ⑤ できる限り外出は控える
- ⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
- ⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
- ⑧ 車は早めにあきらめる
- ⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
- ⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
- ⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る



① 警戒と早期の避難が大切
② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
⑤ できる限り外出は控える
⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
⑧ 車は早めにあきらめる
⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る

身の守るポイント

もりまち ぼうさいでちよう 森町の防災手帳



森 町

① 警戒と早期の避難が大切
② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
⑤ できる限り外出は控える
⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
⑧ 車は早めにあきらめる
⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る

身の守るポイント

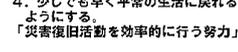
- ① 警戒と早期の避難が大切
- ② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
- ③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
- ④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
- ⑤ できる限り外出は控える
- ⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
- ⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
- ⑧ 車は早めにあきらめる
- ⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
- ⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
- ⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る



① 警戒と早期の避難が大切
② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
⑤ できる限り外出は控える
⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
⑧ 車は早めにあきらめる
⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る

身の守るポイント

- ① 警戒と早期の避難が大切
- ② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
- ③ 音程との様子の違い(異常現象)に注意
- ④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
- ⑤ できる限り外出は控える
- ⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
- ⑦ 過去に発生した災害の体験を通信するな
- ⑧ 車は早めにあきらめる
- ⑨ 水下のマンホールや開閉等に注意
- ⑩ 高齢者、障がい者(災害時要援護者)、災害弱者に気配りを
- ⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る



危機とは

- 自然災害：火山、地震、台風
火災・事故：火事、交通事故、油流失
事件：サリン事件、毒入りカレー事件
緊急事態：不審船、大使館占拠
国際テロ：同時多発テロ
有事：国際紛争

自然災害への対応

- 「我々に自然災害を変えることはできない。」
1. 自然現象の性状を少しでも知るようにする。
「災害を予知するための努力」
 2. 災害に強い環境を作り上げていく。
「被害発生を少なくする。」
 3. 迅速に応急活動を行えるようにする。
「被害をできる限り少なくする、被災のための努力」
 4. 少しでも早く平常の生活に戻れるようにする。
「災害復旧活動を効率的に行う努力」

協議会だより

北海道森町 駒ヶ岳火山防災会議協議会だより - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス http://www.town.hokkaido-mori.le.jp/moriweb/05bosai/01bosai/bosai06-01.html

国語 英和 和英 画像検索 ニュース 企業情報 教えて!

もりまち 森町

みどりとロックの広場

トップページ 暮らし 町のしくみ 産業や建設 教育と文化 防災消防 観光情報

防災 | 交通安全 | 消防

駒ヶ岳火山防災会議協議会

はじめに

1980年(昭和55年)10月に北海道駒ヶ岳周辺の4町1村(森町・砂原町・鹿部町・南茅部町・七飯町)が駒ヶ岳火山防災会議協議会(会長:森町長、事務局:森町)を設立してから、はや四半世紀が経過しました。設立のきっかけは、噴火湾をはさんだ対岸の有珠山が1977~78年(昭和52~53年)に噴火し、駒ヶ岳周辺町村の防災課の間で「おらが山は大丈夫か?」の気運が高まったことが始まりです。平成の大合併により、協議会の構成町である南茅部町が函館市と合併、森町も砂原町と合併し、協議会の構成市町は現在1市3町(函館市・森町・鹿部町・七飯町)となりました。当協議会では日本で初めてハザードマップを作成・発表するなど、さまざま

駒ヶ岳火山防災会議協議会これまでの歩み

平成17年度主な事業内容

北海道火山勉強会in駒ヶ岳

駒ヶ岳火山防災会議協議会の継続性

まとめ

- ◆ 「駒ヶ岳火山防災ハンドブック」の改訂
- ◆ 「気象庁テレビ会議システム」の利活用
- ◆ 「北海道駒ヶ岳火山活動防災ヘリ調査」
- ◆ 「北海道駒ヶ岳火山噴火降灰調査研修会・降灰採取実働訓練」
- ◆ 住民の防災意識向上のための「防災講演会」
- ◆ 「駒ヶ岳登山研修会」
- ◆ 「学校防災教育」「地域防災講演会」
- ◆ 「駒ヶ岳だより」の発行 など

■ 継続するために

- ◇ 協議会事務局が面倒がらず、ねばり強く事業に取り組む
- ◇ 協議会構成市町村の協力(協力者)を得る(連携を図る)
- ◇ 気象庁、北海道、北海道大学など研究機関との連携

ご静聴ありがとうございました。

終わり

駒ヶ岳火山防災会議協議会

安心・安全づくり

災害に対する基本的な心構えとは

- ① 自覚をもって
- ② 迅速確実に
- ③ 協力しあつて
- ④ 積極的に
- ⑤ 親切に

⑥ 気象情報、緊急情報に注意

⑦ 連絡体制をはっきりと

⑧ 報告は忘れずに

⑨ 日頃からの防災意識

⑩ 備えあれば憂いなし

⑪ 日常から行っていない事は、

災害時にもできない

⑫ 自助、共助（互助）協働、

公助の基本理念



知って得る

地震のときの心得

- ① まず、体を守る
- ② すばやく「火の始末」を
- ③ 非常出口の確認
- ④ 家族の安全を確認
- ⑤ あわてて外に飛び出さず。靴をもつ
- ⑥ 避難は徒歩で、非常用持ち出し品は限られたもので
- ⑦ 狭い道路、塀のそば、崖っぶちは避ける
- ⑧ 山崩れ、がけ崩れに注意。危険があれば、直ちに安全な場所に避難
- ⑨ 低地では出水等による浸水に注意
- ⑩ 町・防災関係機関等の確実な情報に従い、あわてず・冷静に行動
- ⑪ 行動は町の指示に従い、スマホによる軽はずみの行動はしない
- ⑫ 秩序を守り、近所隣り助け合い、災害時要援護者をみんなで助ける



津波のときの心得

- ① 震度4以上の強い地震を感じたときは直ちに海や海辺から離れ、急いで高台に避難する。緊急の場合は3階以上の強固な建物に避難する。
- ② 弱い地震でも、長い間ゆっくりとゆれを感じる地震も同じ
- ③ 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときも同じ
- ④ テレビ、ラジオ、防災行政無線等により正しい情報を
- ⑤ 津波注意報でも漁港、岸壁、海岸等から離れる
- ⑥ 津波は繰り返し返ってくるので、発表された警報・注意報が解除になるまで気をゆるめない

津波の知識は



知って得る

身を守るポイント

- ① 警戒と早めの避難が大切
- ② テレビ、ラジオ、防災行政無線に注意
- ③ 普段との様子の違い（異常現象）に注意
- ④ 河川、海岸等の危険な場所に近づくな
- ⑤ できる限り外出は控える
- ⑥ 強風・大雨等の中での応急対策は危険
- ⑦ 過去に発生した災害の体験を過信するな
- ⑧ 車は早めにあきらめる
- ⑨ 水下のマンホールや側溝等に注意
- ⑩ 高齢者、障がい者（災害時要援護者）、災害弱者に気配りを
- ⑪ 自分の住んでいる所、地域の危険を知る



知って得る



もりまち ぼうさいてちょう 森町の防災手帳



森町

危機とは

自然災害；火山、地震、台風

火災・事故；火事、交通事故、油流失

事件；サリン事件、毒入りカレー事件

緊急事態；不審船、大使館占拠

国際テロ；同時多発テロ

有事；国際紛争



自然災害への対応

「我々に自然災害を変えることはできない。」



知って得る

1. 自然現象の性状を少しでも知るようになる。
「災害を予知するための努力」
2. 災害に強い環境を作り上げていく。
「被害発生を少なくする。」
3. 迅速に応急活動を行えるようになる。
「被害をできる限り少なくする、減災のための努力」
4. 少しでも早く平常の生活に戻れるようになる。
「災害復旧活動を効率的に行う努力」